杉原千畝記念館

千畝が生まれた地域風土を、岐阜産の総檜づくりと新伝統構法によって空間化。異境の地「リトアニア」と生誕の地「八百津」の文化差異を表現し、時空を超えて千畝の遺徳を柔らかく包み込みます。木組フレームによる広がりのある展示室、孤高な千畝の執務室、八百津の町を見晴らす展望室で構成されています。

"世界に奏でる平和へのビザ" モニュメント

真実を見つめ、千畝が書き続けた幾枚もの『命のビザ』を重ね、希望の光を反射させながら空へとのびていくモニュメント。
千畝が教えてくれた「人間愛」の心が響くように、訪れる一人ひとりの手によって平和への鐘を世界へ、そして次世代へ向かって奏でてください。

交通のご案内

電車で

- 名鉄 名古屋駅 ／ 名鉄 岐阜駅 ― 犬山駅 ― 新可児駅 ― 明智駅 ― バス(25分)
- JR 名古屋駅 ― 多治見駅 ― 可児駅
- JR 岐阜駅 ― 美濃太田駅 ― バス(30分)

車で

- 東海環状自動車道 ― 可児御嵩IC ― 国道21号、御嵩町経由(20分)
- 名神高速道路 ― 小牧IC ― 国道41号、美濃加茂市経由(60分)

八百津町 ― バス(10分) ― 人道の丘 北 ― 杉原千畝記念館

※バスの運行本数が少なく、乗り継ぎが悪いためご注意ください!
※土日祝日は、八百津町ファミリーセンター前から観光シャトルタクシー(無料)が発着しています。

館内ご利用案内

開館時間 ／ 9:30～17:00
休 館 日 ／ 毎週月曜日(祝日または振替休日の場合は翌日)
年末年始(記念館へお問合せください)

入館料金	個人	大人 (高校生以上)	300円
	団体 (20名以上)	大人 (高校生以上)	250円

※中学生以下は無料。
※障害者手帳を提示の方は、団体料金と同額になります。

お問合せ先

記念館 〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津1071
TEL 0574-43-2460(代) FAX 0574-43-2460

役 場 〒505-0392 岐阜県加茂郡八百津町八百津3903-2
TEL 0574-43-2111(代) FAX 0574-43-0969
[ホームページ] http://www.town.yaotsu.lg.jp

一九四〇年、
千畝にある決断を迫られる
出来事が起こります。
ナチス・ドイツの目を盗んで
逃げてきたユダヤ人たちが
日本の通過ビザを求め、
領事館におしかけてきたのです。

杉原千畝記念館

The Chiune Sugihara Memorial Hall

千畝の、個人の利害に捕われない人間愛に満ちた澄んだ心を、透明なガラスパネルとして表現し、彼の生涯を時代を追って刻みました。

今、あなたは何を感じますか
今、あなたは何ができますか

ごく普通の人であった千畝が、
人間として偉大な行為を
行うことができたものとは――
千畝の努力・柔軟さ・勇気を知る。

ユダヤ人へのビザ発給により、
約6000人もの命を救った

杉原千畝

杉原千畝(1900−1986)

杉原千畝は、ユダヤ人へのビザ発給により約6千人もの尊い命をナチス・ドイツの迫害から救った外交官ですが、ごく一般の環境と家庭の中で育った普通の人でした。その普通の人が、自国の文化を愛しながらも他国の人と共感できる国際人としての資質を持ち、ユダヤ人大虐殺が行われた第二次世界大戦という特異な環境の中で、人間として偉大な行為を行ったのです。

杉原千畝が生まれ育った自然豊かな地に建つこの記念館で、千畝の真の姿に触れてください。

あなたも、努力・柔軟さ・勇気を持って行動すれば、将来においてきっと社会に貢献できるはずです。

『命のビザ』を展示

千畝によって、ナチス・ドイツから逃れることのできたユダヤ人が、「命の次に大切」と語る『命のビザ』。

千畝から学ぶ

1900−1922

知る 八百津で生まれた千畝の生い立ち

1900年、千畝はごく一般の環境と家庭の中で生まれ育ちました。英語教師となる夢を目指し勉学に励みますが生活が苦しくなり、公費で勉強ができる外交官留学生試験に、猛勉強の末合格しました。そしてロシア語研修生として、人生の方向転換をしたのです。

杉原一家(後列中央が千畝)

1923−1940

知る 各地における千畝の仕事

ハルビンにてその能力を見込まれ、千畝は外交官としての希望ある一歩を踏み出します。

一方、ヨーロッパではヒトラーによるナチの独裁が始まり、ユダヤ人の命が脅威にさらされはじめていました。

満州国外交部勤務時の千畝。

そして1940年、千畝にある決断を迫られる出来事が起こります。ナチの目を盗んで逃げてきたユダヤ人たちが、ヨーロッパから逃れるために、日本への通過ビザを求め、領事館前におしかけたのです。

領事館前でビザを求めるユダヤ避難民たち。(1940)

リトアニア・カウナスに、日本領事館開設を命じられた千畝は、同時にソ連からの情報を集めることを命ぜられます。戦争の激しくなったこの頃、ヒトラーによるユダヤ人迫害も激しさを増し、彼らの受け入れ先はほとんど無くなってしまいました。

「ユダヤ人入るべからず」と書かれた看板の前で。(1939)

1940

体験 決断の部屋 自分の決断

「あなたも決断してください」

「ビザを出してもいいですか。」日本の外務省へあてた電報の返ってくる答えは「正規の手続きができない者に、ビザを出してはいけない。」というものでした。ビザを発給しユダヤ人の命を救うべきか、命令に従って外交官の輝かしい道を守るべきか。千畝は悩み、そして一つの答えを出したのでした。

あなたは、ここでどんな決断をしますか?

＊千畝の紹介映像と肉声が視聴できます!

1940−1947

知る ビザ発給後の千畝

帰国後、千畝には外交官としての職場はありませんでした。二十数年後、千畝に一人のユダヤ人が訪ねてきます。目に涙をうかべ、再会を喜ぶ彼の手には28年前リトアニア領事館で判が押され、その後、彼の人生を支えてきたであろうボロボロのビザが、大切に大切に握りしめられていました。

バルハフティク元宗教大臣と。(1969)

映像コーナー(決断の部屋)
千畝の生涯を映像で紹介しています。

ユダヤ人の足跡(1F)
ユダヤ難民たちの逃避ルートを石板で紹介しています。

メッセージボード(1F)
人道への思いを託し、メッセージとしてのこそう。

企画展示室(2F)
企画展などがここでおこなわれています。

展望棟(2F)
千畝のふるさと、八百津の町が一望できます。

杉原千畝の生涯

1900	1月1日 父好水と母やつの二男として出生。(本籍:岐阜県加茂郡八百津町八百津)八百津町で幼少時代を過ごし、その後、父の仕事の関係で三重県や名古屋市で生活する。
1917	愛知県立第五中学校を卒業後、父の希望により京城医学専門学校を受験するも、白紙答案を出し不合格となる。
1918	早稲田大学に入学したが、1919年中退し外務省の留学生としてハルビンに留学。
1924	任外務書記生となり、2月満州国在勤命令、12月にはハルビン在勤命令がでる。
1932	満州国外交部特派員公署事務官となり、翌年には北満鉄道の譲渡を巡りソ連との交渉を始める。1935年、日満ソ三国の協定が成立。
1937	ソ連勤務を命じられていたが、ソ連から入国を拒否され、フィンランドのヘルシンキ公使館勤務になる。
1939	リトアニアの首都カウナスに領事館開設を命じられる。
1940	7月、ユダヤ難民への日本通過ビザの大量発給を始め、8月26日までに、計2139家族に日本通過ビザを出す。 8月29日カウナス領事館を閉鎖。 9月5日カウナス駅より国際列車にてベルリンへ出発。 チェコのプラハ総領事館に勤務。
1941	2月28日に、ドイツ領のケーニヒスベルク総領事館勤務を命じられ、11月にはルーマニアのブカレスト公使館勤務を命じられる。
1945	ブカレスト郊外の捕虜収容所に収監される。
1947	4月に帰国(九州博多)。6月に外務省退官。
1960	商社の事務所長としてモスクワ赴任。以後、会社を二度変わったが、引き続き現地で勤務。
1968	千畝がビザを発給して助かったニシュリ氏と28年ぶりに再会する。
1969	難民時代に杉原が助けたバルハフティク・イスラエル宗教大臣から勲章を受ける。
1975	退職
1985	イスラエル「諸国民の中の正義の人賞」(ヤド・バシェム賞)を受賞。日本人では最初。
1986	神奈川県鎮倉で死去。

杉原千畝記念館
The Chiune Sugihara Memorial Hall